

プログラム名

東京慈恵会医科大学泌尿器科専門研修プログラム

募集定員

8名

研修期間

4年

プログラムの特徴

東京慈恵会医科大学は、建学の精神である「病気を見ずして病人を見よ」にならい、全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。泌尿器科としての高度の専門知識・技術の習得はもちろん、まず医師として医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献することを目標とします。

また、東京慈恵会医科大学泌尿器科では高度の泌尿器科専門知識と技能とともに地域医療にも対応できる総合的診療に必要な基本的臨床能力を修得した泌尿器科専攻医の育成を図り、国民の健康増進、医療の向上に貢献することを目的とします。特に当科では①低侵襲な腹腔鏡手術、②特殊領域である小児泌尿器科、③患者数の最も多い排尿障害を3本の柱として教育を行っていきます。①は当施設でもっと施行されている術式であり、適応疾患も拡大しております。患者数の増加も予想され、泌尿器科専門医として必要な技術であると考えます。慈恵医大泌尿器科ではその豊富な経験と症例数で、腹腔鏡手術の技術の取得を目指します。また、国立がん研究センター中央病院との連携により、豊富な症例数による悪性腫瘍を中心とした研修も可能です。さらに、国立がん研究センター中央病院ではロボット手術も研鑽できます。②は当院関連施設である国立成育医療研究センターにて、小児泌尿器科に必要な知識や技能を習得します。症例の豊富な小児専門施設にて研修することで、地域医療でも必要とされる最低限度の小児泌尿器科領域の知識や技術を身に着けることを目指します。③では超高齢化社会に突入し、男性女性問わず泌尿器科領域では最も患者数が多いとされる疾患です。専門知識や技術はもちろん、本院では二分脊椎、東京都リハビリテーション病院では脊椎損傷患者も多数治療しております。また、豊富な関連施設をローテーションすることにより、

様々な症例を均一に担当することを目標とします。専門病院から地方の拠点病院まで病院のタイプもさまざまであり、その地域に応じた泌尿器科医としての責務を全うすることを目標とします。さらに臨床現場を離れた学習のひとつとして、毎月国内外の著名な先生方を基幹施設にご招待して、最新の医療を紹介して頂いたり、診療で苦慮した症例のカンファレンスを開催したり、将来の留学先や共同研究に発展する内容を話し合ったりしております。特に年2回海外から演者を呼んでおります。

最後に、東京慈恵会医科大学泌尿器科専門研修プログラムではグローバルに活躍する泌尿器科医の育成を目指しており、研修終了後は海外留学を積極的に奨励しております。実際に過去5年間で8名の若い医師らが海外の主要な施設（ハーバード、トロント、UCLA、メモリアル・スローン・ケタリング癌センターなど）へ基礎や臨床研究を目的として留学しております。